



# 産経新聞

## 「遺骨をダイヤモンドに」新たな供養

故人の遺骨や遺灰からダイヤモンドを作る。そんな新たな供養が注目を集めている。遺骨から取り出した炭素を「永遠の輝き」に変えるビジネスだが、故人の弔い方が多様化するなか、家族の思い出を「肌身離さず身に着きたい」と願う遺族からの問い合わせが相次いでいる。(伊藤鉄平)

### 9割が女性

遺骨からダイヤモンドを作るサービスをを行う「ライフジェム・ジャパン」(東京都港区)には、サービスを始めた昨年十月以降、百七十件を超える依頼があった。

依頼者の約九割が女性。故人の思い出を指輪やペンダントにして、絶えず身に着きたいという要望がほとんどだ。とくに目立つのは、事故や病気などで、子供を亡くした母親からの依頼

# 思い出 いつも一緒に



「世界で一つだけのダイヤモンド」と語るライフジェム・ジャパンの藤沢徹社長。ダイヤモンドは金色に近い輝きになる

## 異なる色合い、世界で一つ

「肉親の突然の死を受け入れられず、ふさぎこんでしまう依頼者も少なくない。その心の支えになれば」と藤沢社長はいう。祖父や祖母が亡くなり、母親のために贈りたいと考える孫や、墓の問題などで死後、家族に迷惑をかけたくないという人からの生前の問い合わせも多いという。

### 5カ月かけて

遺骨をダイヤモンドにする技術は、米国でメモリアルダイヤモンドを製造・販売するライフジェム社が開発した。

遺骨や遺灰を三三〇〇―三三〇〇度の高温で加熱し、炭素を

取り出す。その炭素をさらに特殊な機械で、十日間から三週間

にわたって加圧することで、ダイヤモンドになる。必要な遺骨は約三〇〇cc、マグカップ一杯程度だ。

生成されるダイヤモンドは、骨に含まれる窒素などの影響で、金色がかって見える。その色合いは一つ一つ違い、「故人の個性」が表れた世界で一つだけのダイヤモンドになる(藤沢社長)という。

価格は〇・二等級で約四十万円、一等級で約二百二十万円と天然物より値が張るが、出来上がりは天然と同程度の高品質という。プラント(製造設備)は

「ラウンド」「プリンセス」などカットの形も指定できる。問い合わせは、ライフジェム・ジャパン ☎03・5774・1155、アルゴダンザ・ジャパン ☎054・253・7130。

「このダイヤモンドは三十二年間に及ぶ母の思いの結晶。北朝鮮から妹が帰ってきたら、その手にそっと握らせてあげたいんです」

拉致の疑いが指摘される「特定失踪者」。そのリストに名を連ねる生島孝子さん(失踪当時21)の姉、馨子さん(56)も、肉親の遺骨でダイヤモンドを作った一人だ。ダイヤモンドを継いだのは、今年二月、九十九歳で無念のうちに他界した母、うらさん。三十二年間にわたり、孝子さんと

### 「特定失踪者」生島孝子さんの姉、馨子さん

の再会を待ち望んでいた。「妹に会うために一日でも長生きしたいと、病床でいつも言っていたのに...。その母の気持ちを形に残したかった」と語る馨子さん。

うらさんの遺骨からダイヤモンドを作ろうというのは馨子さん(失踪当時21)の姉、馨子さんの発案だ。「母を『物』にしてしまうことに抵抗はありましたが、こんなにきれいな姿、脚の救出活動は続いているよ」と思っています」と目を細めた。

## 「妹の胸で再会を...」母の遺骨、ペンダントに

る。一歩のダイヤモンドはペンダントにし、妹に手渡すその日までも、肌身離さず身に着ける。「母が見ていると思うと、どんなことがあっても妹を取り戻さなければという気持ちを作ろうというのには馨子さん(失踪当時21)の姉、馨子さんに押しつけられる。母が私の背中を押してくれるんです」と話す馨子さん。うらさんと二人三脚の救出活動は続いているよ」と思っています」と目を細めた。

米国にあり、受け取りまでは約五カ月かかる。また、今年六月には、スイスにプラントを持つ「アルゴダンザ・ジャパン」(静岡市)も同様のサービスを開始した。

法月雅喜社長によると、遺骨から炭素を取り出す過程に違いがあり、こちらは骨に含まれるホウ素の働きで、ダイヤモンドが青色になるのが特徴。四十一歳代で伴侶に先立たれた人からの問い合わせが多いという。